

令和5年度  
市民意識調査（アンケート）  
結果報告書

令和6年4月  
鹿屋市

# 目 次

	ページ
1 調査の概要	
(1) 目的	1
(2) 抽出方法	1
(3) 対象者数	1
(4) 調査期間	1
(5) 回答者数	1
(6) アンケート回答者数の信頼性	1
2 回答者の状況	
(1) 性別	2
(2) 年齢	2
(3) 家族構成	3
(4) 職業	3
(5) 住まい	4
(6) 居住年数	4
(7) オンラインでの回答状況	5
3 鹿屋市の住みやすさについて	
(1) 住みやすさについて	6
(2) 住みやすい理由（※前回との比較、居住地別）	7～8
(3) 鹿屋市がより「住みやすいまち」になるには（※前回との比較、居住地別）	9～10
4 鹿屋市が実施している施策の認知度等について	
(1) 基本施策の認知度と、取組を知っている人で「期待できない」と回答した人の割合	11
(2) 各基本施策の統計	12～19
5 総合計画に記載されているKPIについて	
(1) 男女平等意識について	
①各分野における男女の地位の平等感	20～21
②社会全体において男女が「平等である」と感じる人の割合	21
(2) 子育てに対する環境や支援に満足している市民の割合	22
(3) スポーツ実施率（過去1年間に週1回以上、運動・スポーツを行った割合）	23
(4) いまの生活に幸福を感じている市民の割合	23
(5) 鹿屋市が重点を置くべきデジタル施策について	24
参考 調査票	
別冊 自由意見	

# 1 調査の概要

## (1) 目的

統計資料等から把握できない内容を聞き取るとともに、第2次鹿屋市総合計画の各施策とその施策に基づき進めている取組が、市民にどの程度認知され、期待されているのかを分析し、その結果を今後の行政運営に生かすもの。

また、第2次鹿屋市総合計画に記載されているKPIの検証を行うもの。

## (2) 抽出方法

16歳以上の市民の中から無作為に抽出

## (3) 対象者数

2,500人

## (4) 調査期間

令和6年1月17日～2月7日（3週間）

## (5) 回答者数

851人（回答率 34.0%）

## (6) アンケートの信頼性

本来、アンケート調査を行う場合、その回答誤差をなくすためには、全母集団（全被験者）を対象とすることが理想であるが、母集団（被験者）の数が膨大な場合、効率的ではないため、適当なサンプル数（人数）を選んで行う。

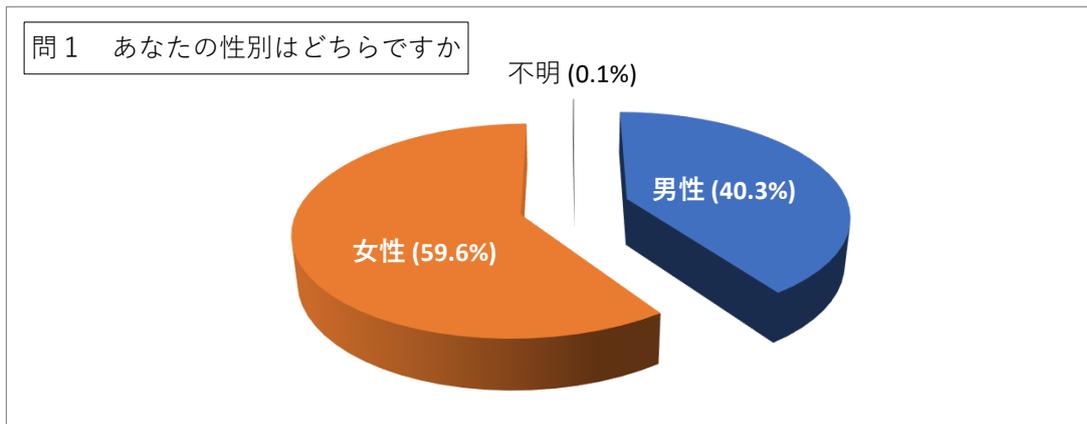
その場合、アンケート回答者数と回答誤差の関係は、当然、回答者数が少ないと誤差が大きく、回答者数が多いと誤差は小さくなるが、その関係は一定でなく、ある一定の数を超えると、回答者数を大幅に増やしても回答誤差はほとんど変わらない。

統計学的には、この「一定の数」は標本誤差が3～5%以内であればよいとされている。標本誤差3～5%となるためには、385人から1,067人の回答者数があればよく、今回のアンケートの回答者数は851人であるので、本調査は信頼性が確保されていると言える。

$n = 1.96^2 \times \frac{p(1-p)}{d^2}$	$1.96^2 \times \frac{0.5(1-0.5)}{0.05^2} = 384.2$
n : 回答者数	$1.96^2 \times \frac{0.5(1-0.5)}{0.03^2} = 1067.1$
p : 回答比率（50%で精度最大）	
d : 標本誤差	※ 851人の時の標本誤差 = 3.36%

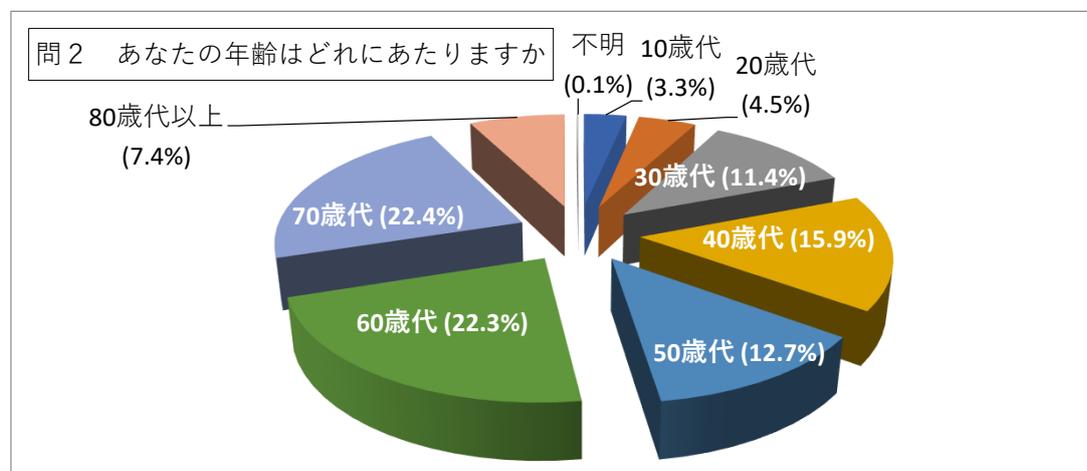
## 2 回答者の状況

### (1) 性別



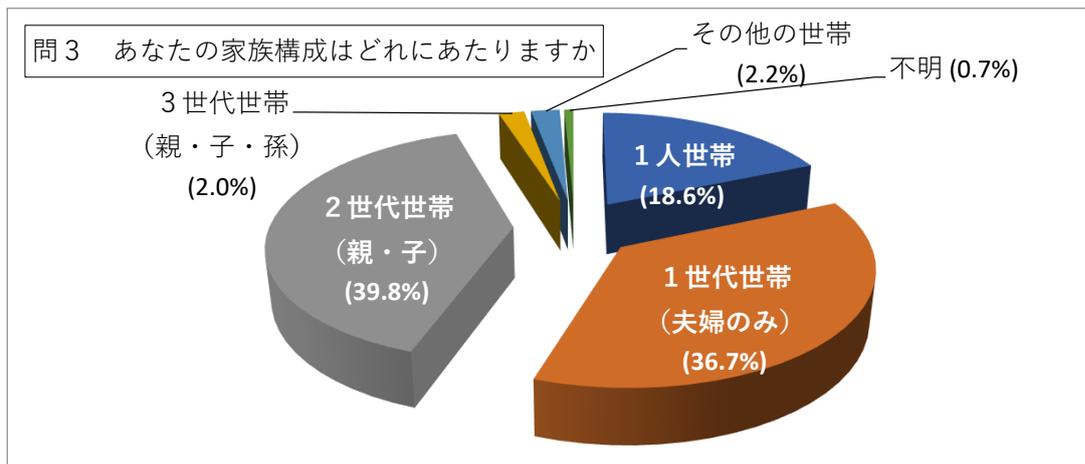
	回答者数	割合
男性	343人	40.3%
女性	507人	59.6%

### (2) 年齢



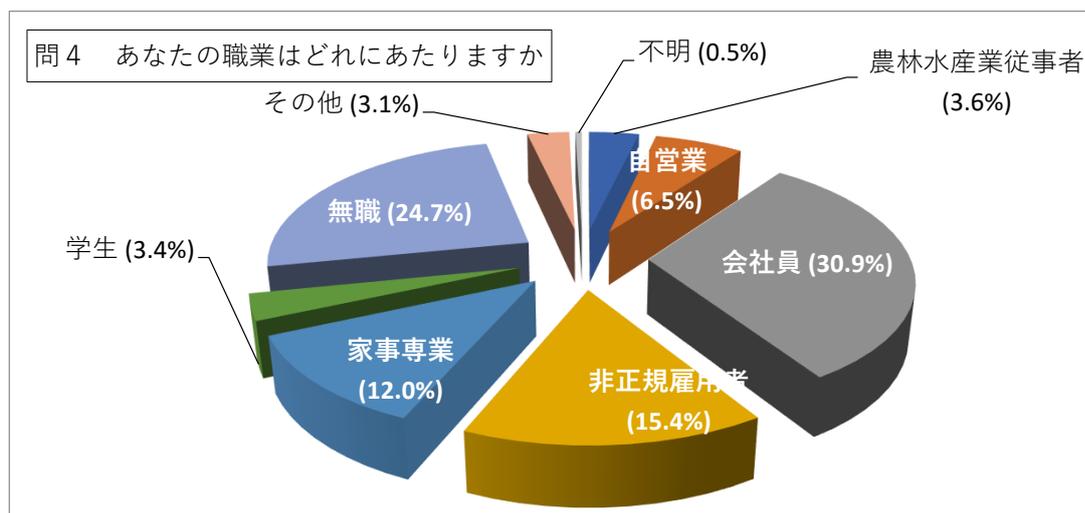
	回答者数	割合
10歳代	28人	3.3%
20歳代	38人	4.5%
30歳代	97人	11.4%
40歳代	135人	15.9%
50歳代	108人	12.7%
60歳代	190人	22.3%
70歳代	191人	22.4%
80歳代以上	63人	7.4%

(3) 家族構成



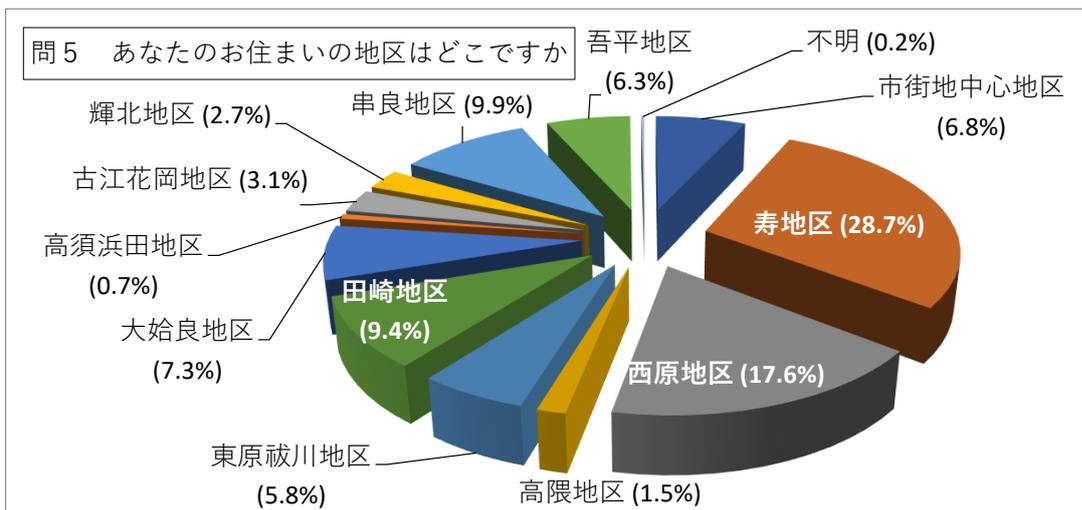
	回答者数	割合
1人世帯	158人	18.6%
1世代世帯 (夫婦のみ)	312人	36.7%
2世代世帯 (親・子)	339人	39.8%
3世代世帯 (親・子・孫)	17人	2.0%
その他の世帯	19人	2.2%

(4) 職業



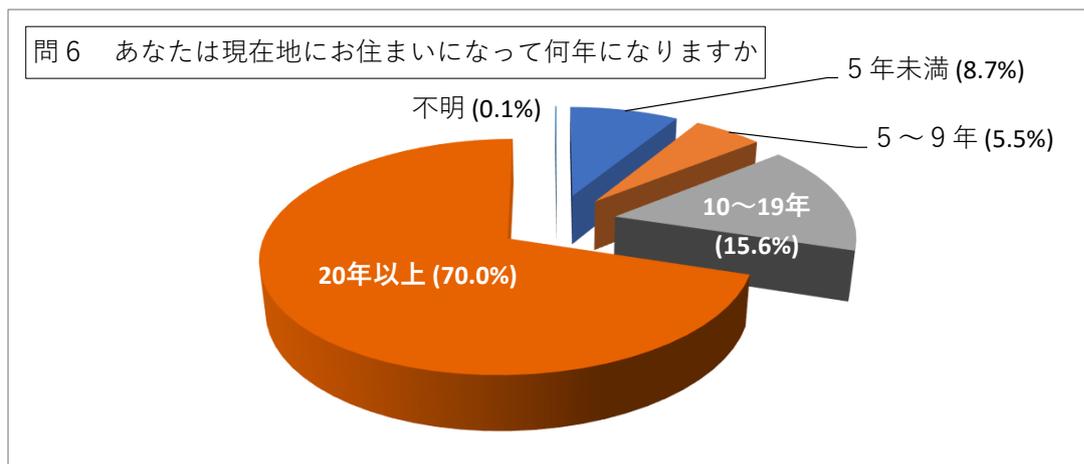
	回答者数	割合		回答者数	割合
農林水産業	31人	3.6%	家事専業	102人	12.0%
自営業	55人	6.5%	学生	29人	3.4%
会社員	263人	30.9%	無職	210人	24.7%
非正規雇用者	131人	15.4%	その他	26人	3.1%

(5) 住まい



	回答者数	割合		回答者数	割合
中心市街地	58人	6.8%	大始良	62人	7.3%
寿	244人	28.7%	高須・浜田	6人	0.7%
西原	150人	17.6%	古江・花岡	26人	3.1%
高隈	13人	1.5%	輝北	23人	2.7%
東原・祓川	49人	5.8%	串良	84人	9.9%
田崎	80人	9.4%	吾平	54人	6.3%

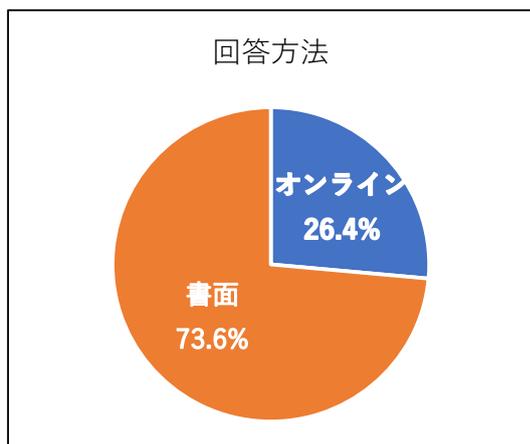
(6) 居住年数



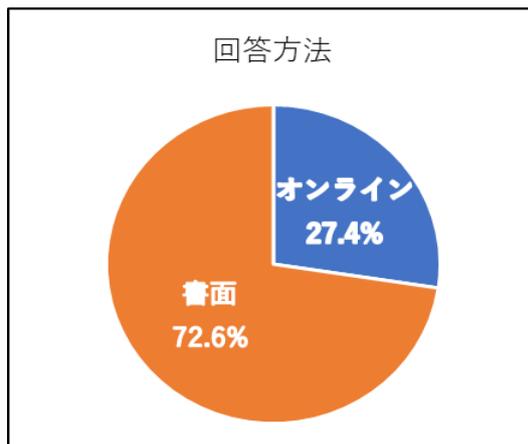
	回答者数	割合
5年未満	74人	8.7%
5年～9年	47人	5.5%
10年～19年	133人	15.6%
20年以上	596人	70.0%

(7) オンラインでの回答状況

令和5年度



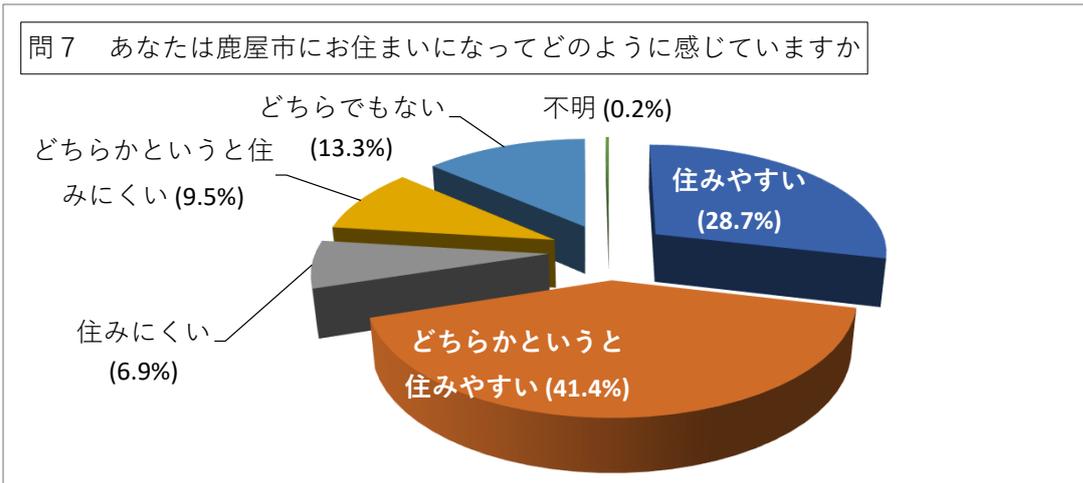
令和4年度



◆女性の回答率が59.6%と男性に比べて19.3%高く、回答者の70%が20年以上鹿屋市に居住していた。また回答者の80.7%が40歳以上で、オンライン回答率については前年より1%減少した。

### 3 鹿屋市の住みやすさについて

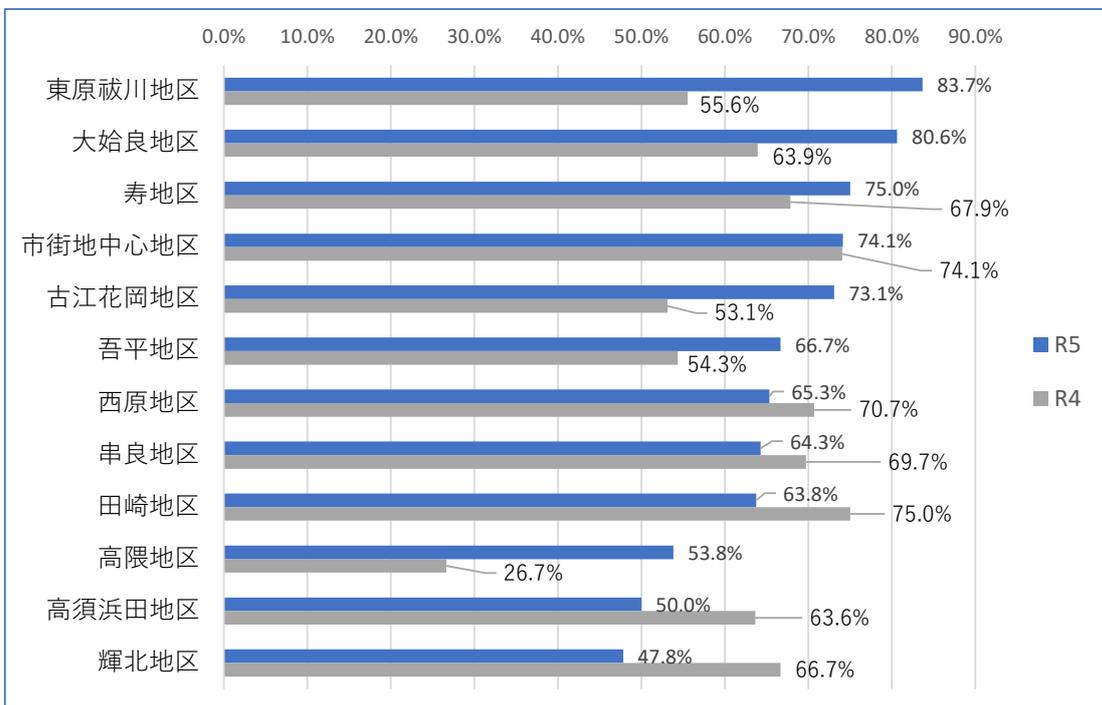
#### (1) 住みやすさについて



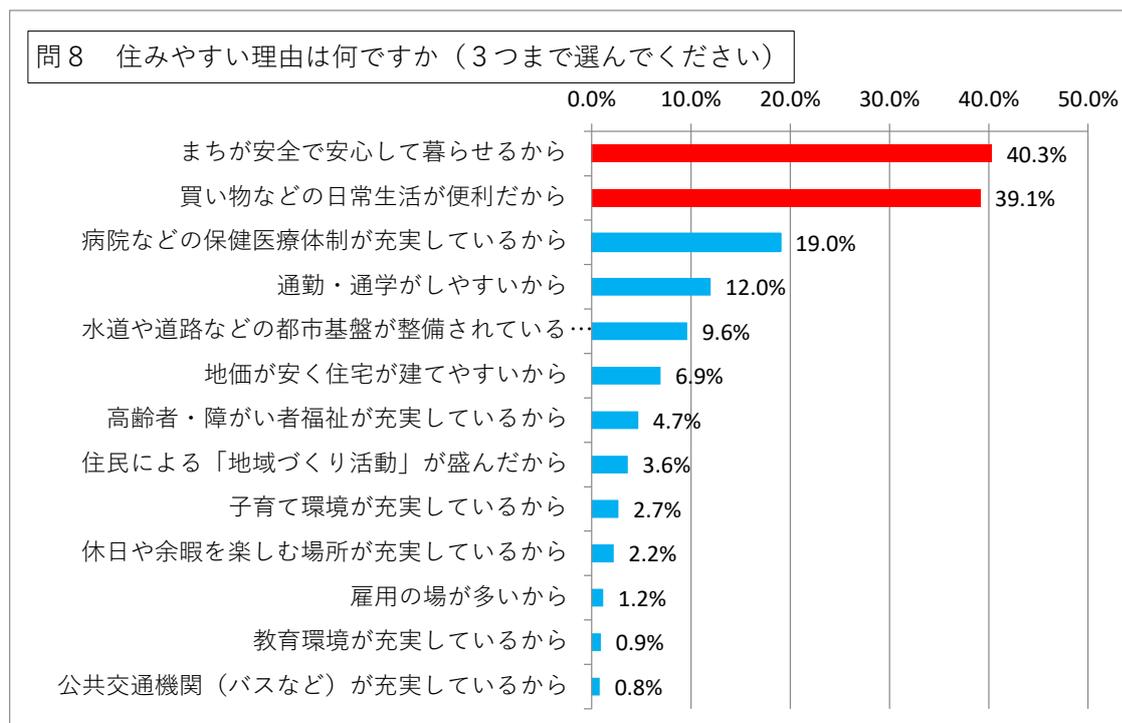
	回答者数	割合
住みやすい	244人	28.7%
どちらかというに住みやすい	352人	41.4%
住みにくい	59人	6.9%
どちらかというに住みにくい	81人	9.5%
どちらでもない	113人	13.3%

◆「住みやすい」・「どちらかというに住みやすい」と回答した人の割合が70.1%であった。「住みにくい」・「どちらかというに住みにくい」と回答した人の割合は16.4%であった。

#### ※居住地別の住みやすさ



## (2) 住みやすい理由



◆「まちが安全で安心して暮らせるから」・「買い物などの日常生活が便利だから」の割合が他と比べて飛び抜けて多い。

### ※前回（R4）との比較

順位	項目	R5		R4	
		割合	順位 前年比較	割合	順位
1	まちが安全で安心して暮らせるから	40.3%	→	38.5%	1
2	買い物などの日常生活が便利だから	39.1%	→	37.0%	2
3	病院などの保健医療体制が充実しているから	19.0%	→	18.6%	3
4	通勤・通学がしやすいから	12.0%	→	11.7%	4
5	水道や道路などの都市基盤が整備されているから	9.6%	→	8.7%	5
6	地価が安く住宅が建てやすいから	6.9%	↗	5.4%	7
7	高齢者・障がい者福祉が充実しているから	4.7%	↘	5.5%	6
8	住民による「地域づくり活動」が盛んだから	3.6%	↗	2.4%	9
9	子育て環境が充実しているから	2.7%	↘	4.9%	8
10	休日や余暇を楽しむ場所が充実しているから	2.2%	→	2.4%	10
11	雇用の場が多いから	1.2%	→	1.4%	11
12	教育環境が充実しているから	0.9%	→	1.2%	12
13	公共交通機関（バスなど）が充実しているから	0.8%	→	1.1%	13

◆上位5項目、下位4項目は変わりなし。  
「地価が安く住宅が建てやすいから」・「住民による『地域づくり活動』が盛んだから」の割合は増加したが、「高齢者・障がい者福祉が充実しているから」・「子育て環境が充実しているから」の割合は減少した。

※居住地別の「住みやすい理由」（上位3つ）

## 中心市街地

- ・買い物などの日常生活が便利だから
- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・病院などの保健医療体制が充実しているから

## 寿地区

- ・買い物などの日常生活が便利だから
- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・病院などの保健医療体制が充実しているから

## 西原地区

- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・買い物などの日常生活が便利だから
- ・病院などの保健医療体制が充実しているから

## 高隈地区

- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・買い物などの日常生活が便利だから
- ・病院などの保健医療体制が充実しているから

## 東原・祓川地区

- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・買い物などの日常生活が便利だから
- ・病院などの保健医療体制が充実しているから

## 田崎地区

- ・買い物などの日常生活が便利だから
- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・通勤・通学がしやすいから

## 大始良地区

- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・買い物などの日常生活が便利だから
- ・病院などの保健医療体制が充実しているから

## 高須・浜田地区

- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・高齢者・障がい者福祉が充実しているから

## 古江・花岡地区

- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・水道や道路などの都市基盤が整備されているから
- ・買い物などの日常生活が便利だから

## 輝北地区

- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・水道や道路などの都市基盤が整備されているから
- ・病院などの保健医療体制が充実しているから

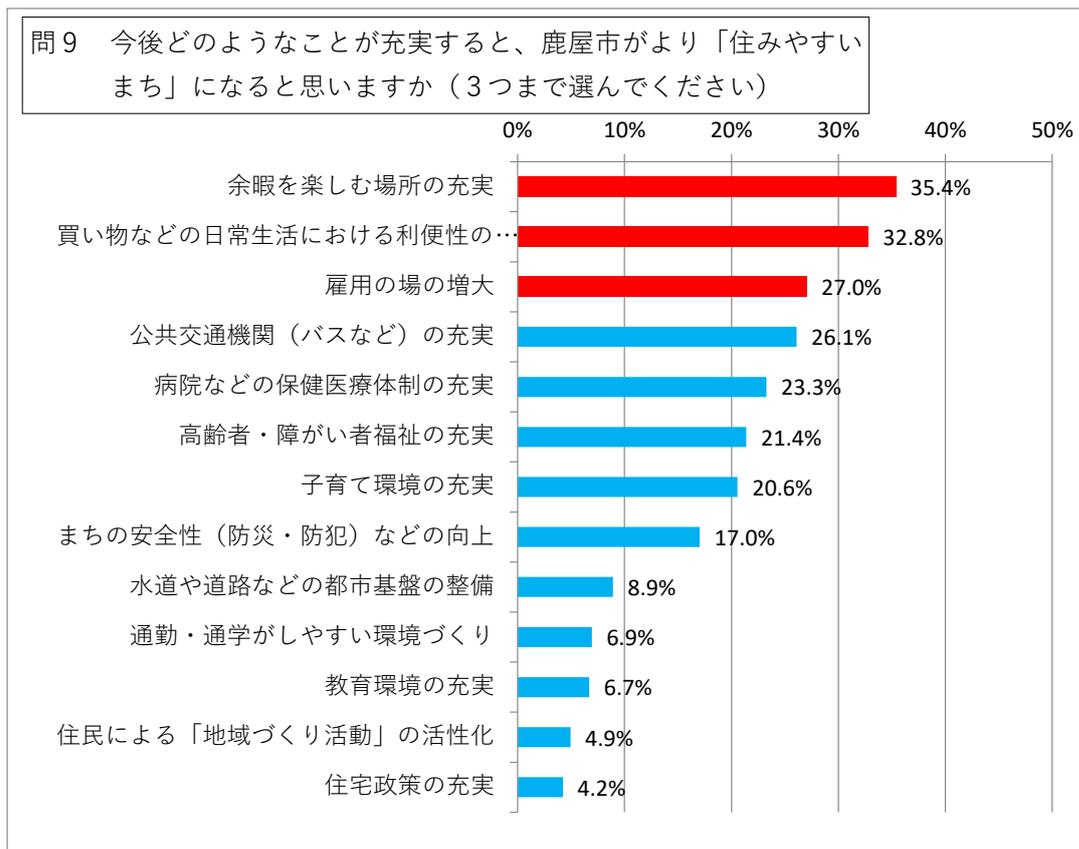
## 串良地区

- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・買い物などの日常生活が便利だから
- ・病院などの保健医療体制が充実しているから
- ・水道や道路などの都市基盤が整備されているから

## 吾平地区

- ・まちが安全で安心して暮らせるから
- ・買い物などの日常生活が便利だから
- ・水道や道路などの都市基盤が整備されているから

(3) 鹿屋市がより「住みやすいまち」になるには



※前回（R4）との比較

順位	項目	R5	順位 前年比較	R4	
		割合		割合	順位
1	余暇を楽しむ場所の充実	35.4%	→	37.4%	1
2	買い物などの日常生活における利便性の向上	32.8%	→	31.1%	2
3	雇用の場の増大	27.0%	→	28.9%	3
4	公共交通機関（バスなど）の充実	26.1%	→	26.7%	4
5	病院などの保健医療体制の充実	23.3%	→	24.8%	5
6	高齢者・障がい者福祉の充実	21.4%	→	23.8%	6
7	子育て環境の充実	20.6%	→	19.3%	7
8	まちの安全性（防災・防犯）などの向上	17.0%	→	16.8%	8
9	水道や道路などの都市基盤の整備	8.9%	→	10.3%	9
10	通勤・通学がしやすい環境づくり	6.9%	↗	6.5%	11
11	教育環境の充実	6.7%	↘	9.0%	10
12	住民による「地域づくり活動」の活性化	4.9%	→	5.4%	12
13	住宅政策の充実	4.2%	→	4.7%	13

◆上位9項目は変わりなく、「余暇を楽しむ場所の充実」が35.4%で一番求められている。また「通勤・通学がしやすい環境づくり」がランクアップし、「教育環境の充実」がランクダウンした。

※居住地別の「より住みやすいまち」になるために必要なこと（上位3つ）

## 中心市街地

- ・余暇を楽しむ場所の充実
- ・買い物などの日常生活における利便性の向上
- ・公共交通機関(バスなど)の充実
- ・雇用の場の増大

## 寿地区

- ・余暇を楽しむ場所の充実
- ・雇用の場の増大
- ・子育て環境の充実

## 西原地区

- ・余暇を楽しむ場所の充実
- ・雇用の場の増大
- ・公共交通機関(バスなど)の充実

## 高隈地区

- ・買い物などの日常生活における利便性の向上
- ・病院などの保健医療体制の充実
- ・雇用の場の増大

## 東原・祓川地区

- ・買い物などの日常生活における利便性の向上
- ・高齢者・障がい者福祉の充実
- ・雇用の場の増大

## 田崎地区

- ・余暇を楽しむ場所の充実
- ・買い物などの日常生活における利便性の向上
- ・病院などの保健医療体制の充実

## 大始良地区

- ・買い物などの日常生活における利便性の向上
- ・高齢者・障がい者福祉の充実
- ・公共交通機関(バスなど)の充実

## 高須・浜田地区

- ・公共交通機関(バスなど)の充実
- ・買い物などの日常生活における利便性の向上
- ・高齢者・障がい者福祉の充実

## 古江・花岡地区

- ・買い物などの日常生活における利便性の向上
- ・雇用の場の増大
- ・高齢者・障がい者福祉の充実

## 輝北地区

- ・買い物などの日常生活における利便性の向上
- ・病院などの保健医療体制の充実
- ・公共交通機関(バスなど)の充実

## 串良地区

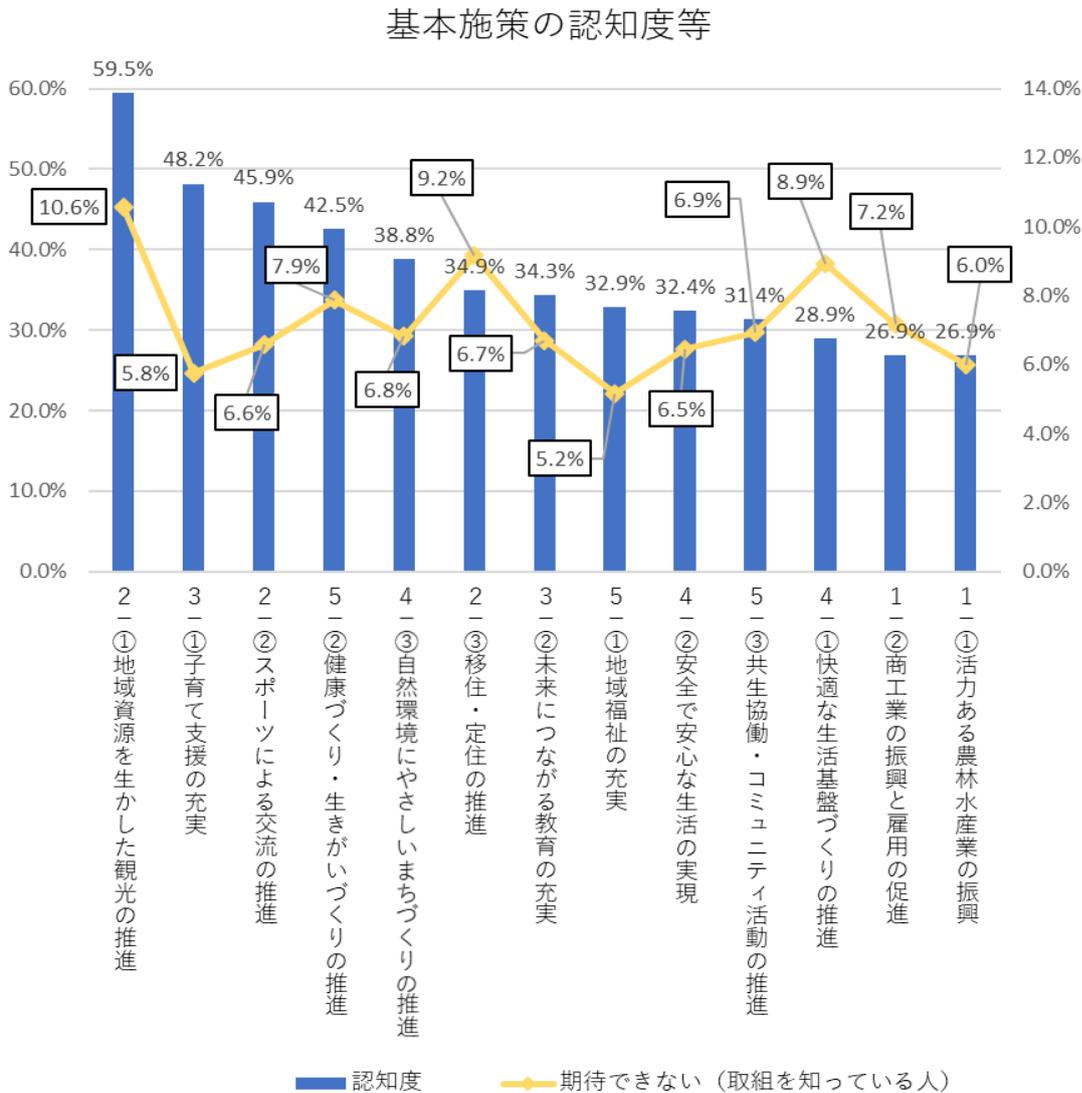
- ・買い物などの日常生活における利便性の向上
- ・雇用の場の増大
- ・高齢者・障がい者福祉の充実

## 吾平地区

- ・買い物などの日常生活における利便性の向上
- ・余暇を楽しむ場所の充実
- ・公共交通機関(バスなど)の充実

## 4 鹿屋市が実施している施策の認知度等について

(1) 基本施策の認知度と、取組を知っている人で「期待できない」と回答した人の割合



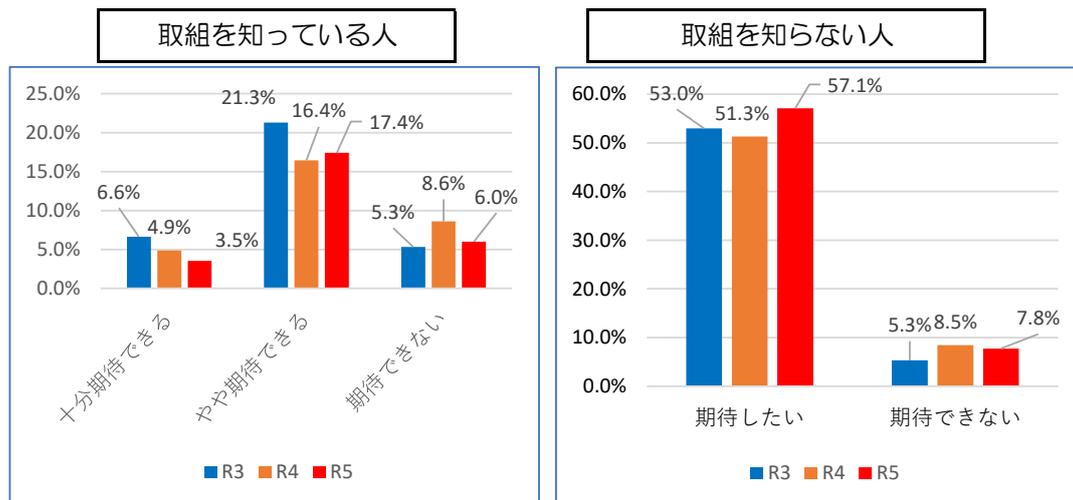
◆ 「(2-①)地域資源を生かした観光の推進」の認知度が59.5%で一番高かった。その次に「(3-①)子育て支援の充実」、「スポーツによる交流の推進」の認知度が高かった。また「取組を知っている」人の中で「期待できない」と回答した割合が高かったのは、「(2-①)地域資源を生かした観光の推進」、「(2-③)移住・定住の推進」、「(4-①)快適な生活基盤づくりの推進」であった。

なお、取組を知らない人は全ての施策で「期待したい」と回答した割合が高くなっている。

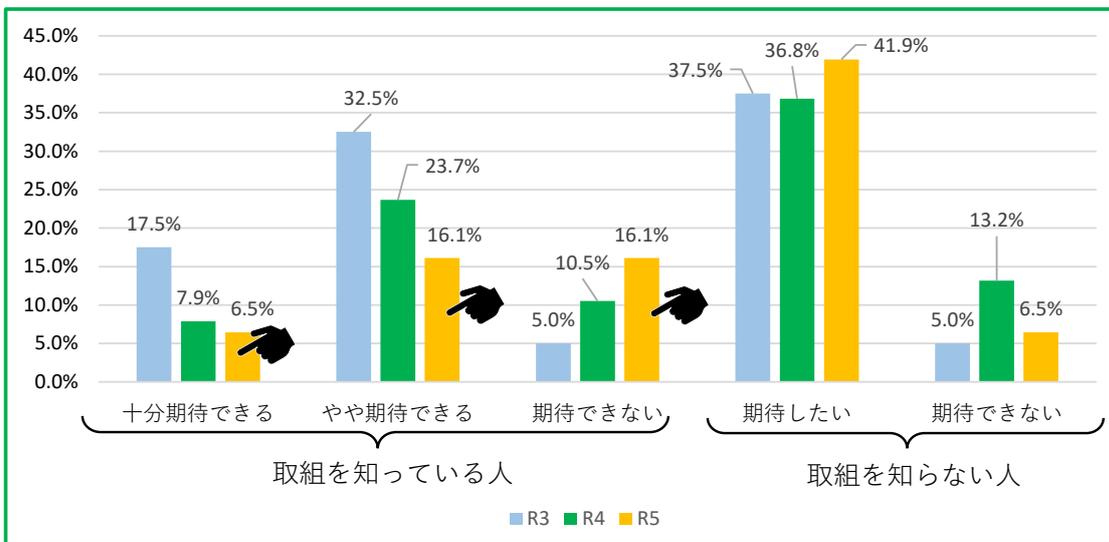
(2) 各基本施策の統計（※年度別）

<基本目標1 やってみたい仕事ができるまち>

①活力ある農林水産業の振興

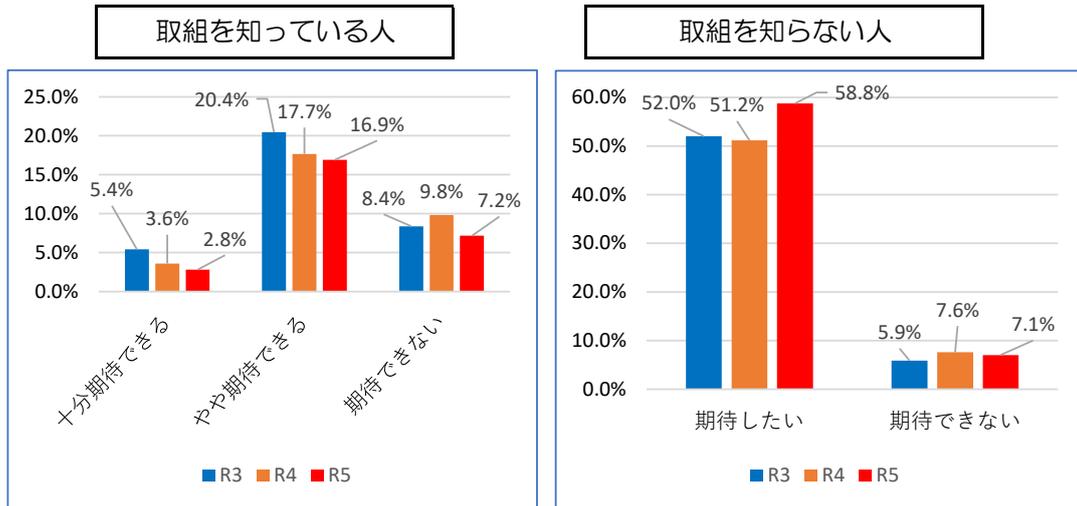


※農林水産業従事者の統計



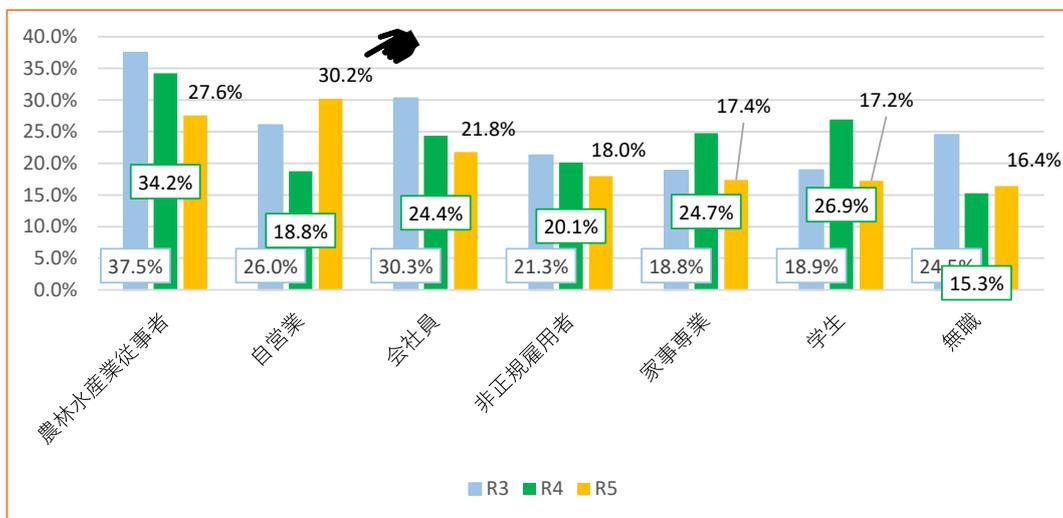
◆農林水産業従事者の「取組を知っている人」の期待度を見ると、前年と同様に取組を知っている人で「十分期待できる」、「やや期待できる」と回答した人の割合がそれぞれ1.4%、7.6%減少し、「期待できない」と回答した人の割合が5.6%増加している。

②商工業の振興と雇用の促進



◆「取組を知っている人」については、「期待できる」と回答した割合が19.7%と前年より1.6%減少している。「取り組みを知らない人」については、「期待したい」と回答した割合が7.6%増加している。

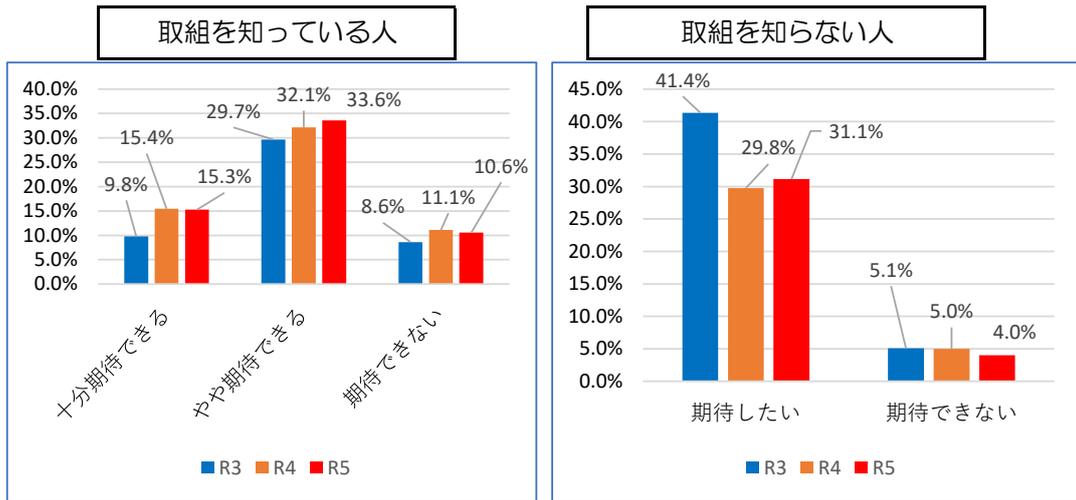
※職業別の期待度（取組を知っている人）



◆職業別に「取組を知っている人」の期待度を前年度と比較して見ると、「自営業」においては11.4%増加している一方、「農林水産業従事者」・「会社員」・「非正規雇用者」・「家事専業」・「学生」においてはすべて減少している。

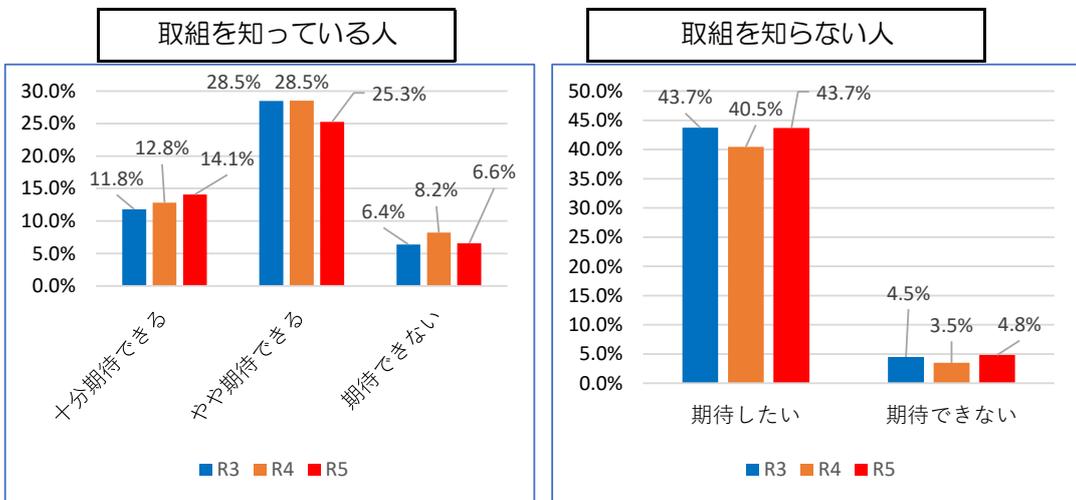
<基本目標2 いつでも訪れやすいまち>

①地域資源を生かした観光の推進



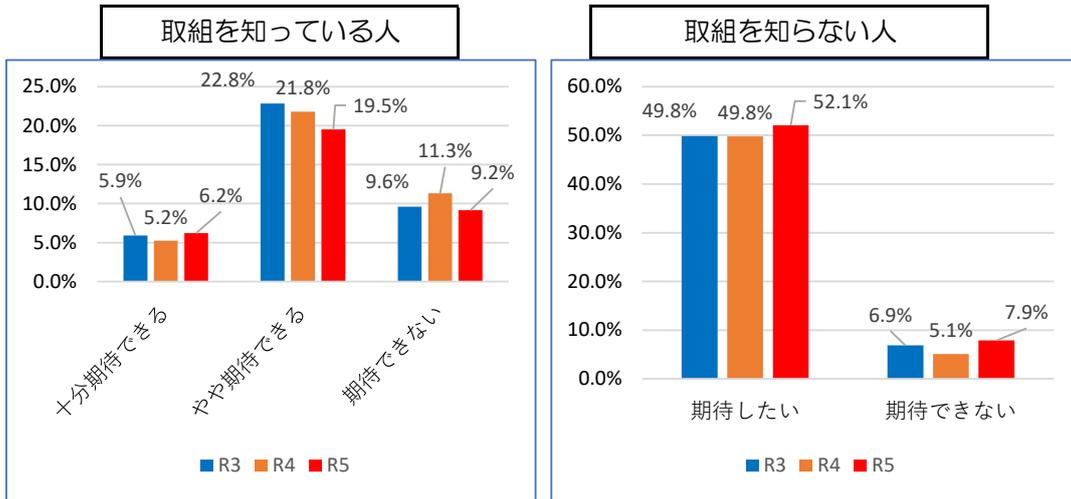
◆「取組を知っている人」については、「期待できる」と回答した割合が48.9%と前年より1.4%増加している。「取組を知らない人」については、「期待したい」と回答した割合が1.3%増加している。

②スポーツによる交流の推進



◆「取組を知っている人」については、「期待できる」と回答した割合が39.4%と前年より1.9%減少している。「取組を知らない人」については、「期待したい」と回答した割合が2.8%増加している。

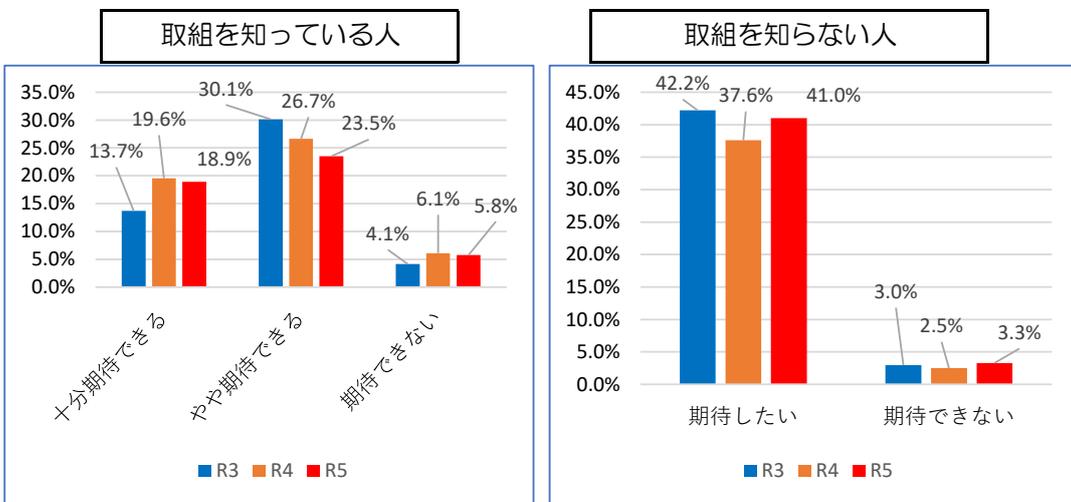
③移住・定住の推進



◆「取組を知っている人」については、「期待できる」と回答した割合が25.7%と前年より1.3%減少している。「取組を知らない人」については、「期待したい」と回答した割合が2.3%増加している。

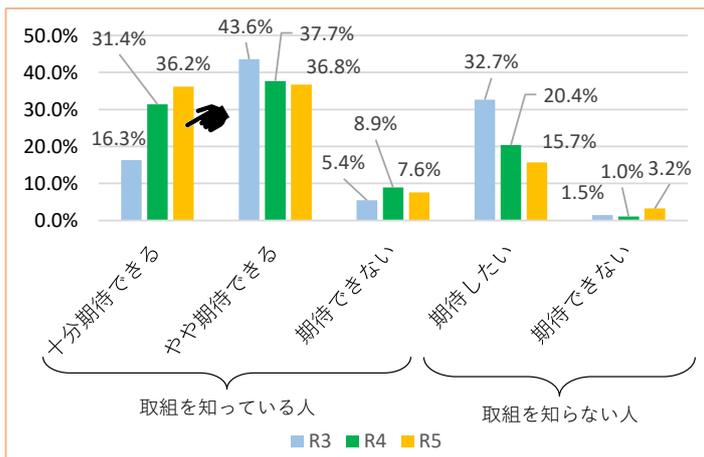
<基本目標3 子育てしやすいまち>

①子育て支援の充実



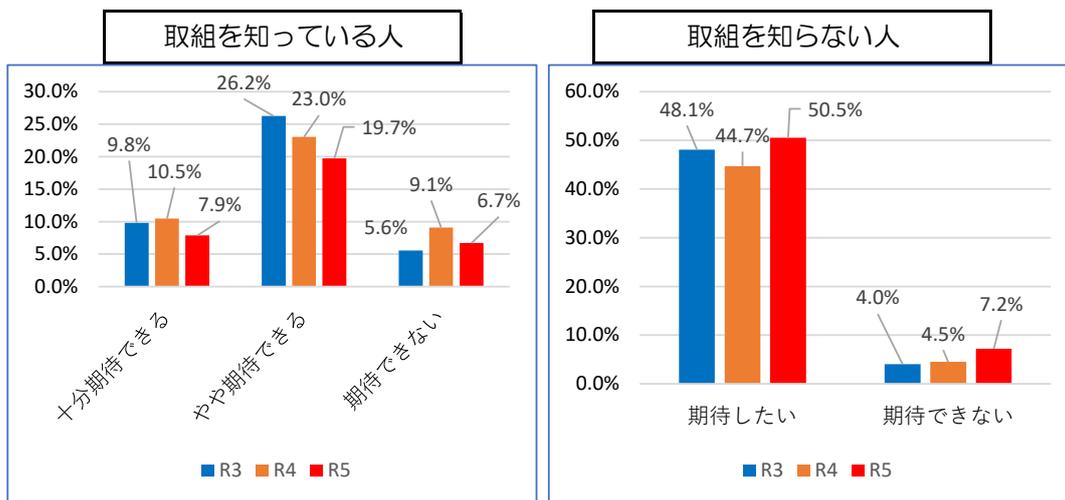
◆「取組を知っている人」については、「期待できる」と回答した割合が42.4%と前年より3.9%減少している。「取組を知らない人」については、「期待したい」と回答した割合が3.4%増加している。

※子育て世代（20～40歳代の2世代世帯・3世代世帯）の統計



◆子育て世代に絞った回答では、取組を知っている人の中で「期待できる」の割合は73%で前年と比較すると、3.9%増加している。取組を知らない人の中で「期待したい」と回答した割合は4.7%減少している。

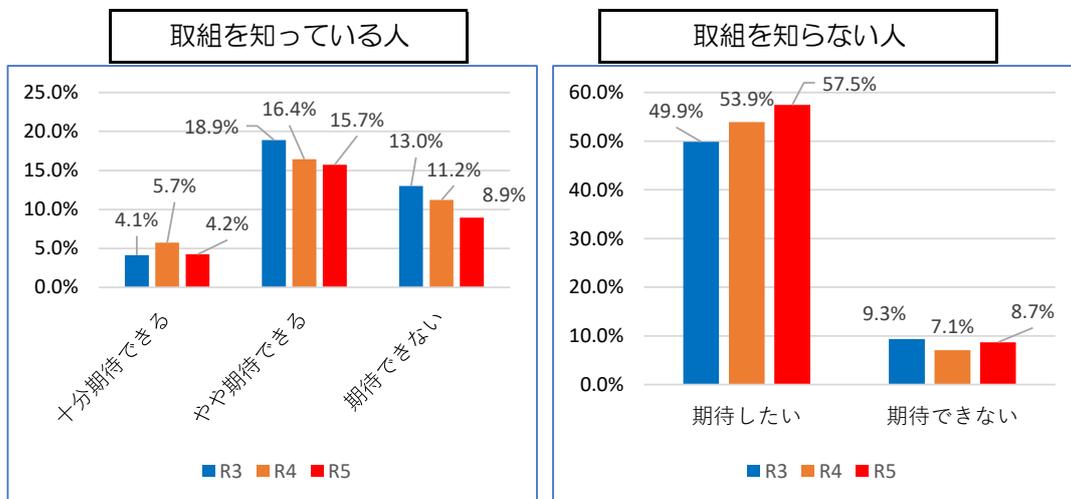
②未来につながる教育の充実



◆「取組を知っている人」については、「期待できる」と回答した割合が27.6%と前年より5.9%減少している。「取り組みを知らない人」については、「期待したい」と回答した割合が5.8%増加している。

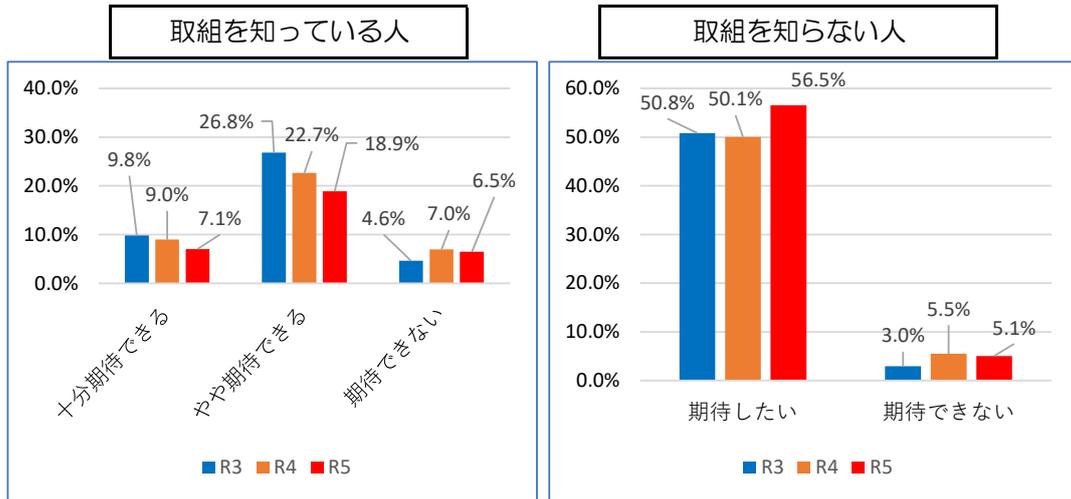
<基本目標4 未来につながる住みよいまち>

①快適な生活基盤づくりの推進



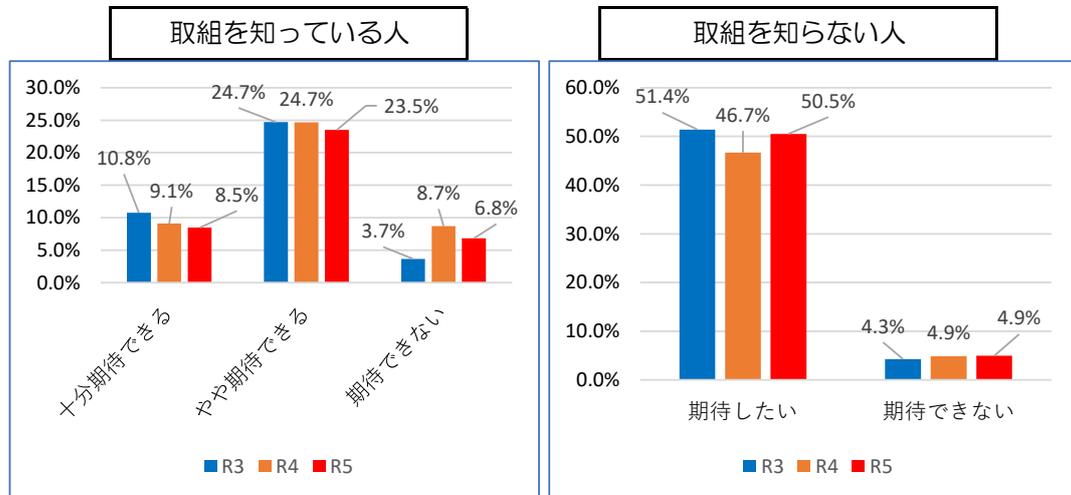
◆「取組を知っている人」については、「期待できる」と回答した割合が19.9%と前年より2.2%減少している。「取り組みを知らない人」については、「期待したい」と回答した割合が3.6%増加している。

②安全で安心な生活の実現



◆「取組を知っている人」については、「期待できる」と回答した割合が26%と前年より5.7%減少している。「取り組みを知らない人」については、「期待したい」と回答した割合が6.4%増加している。

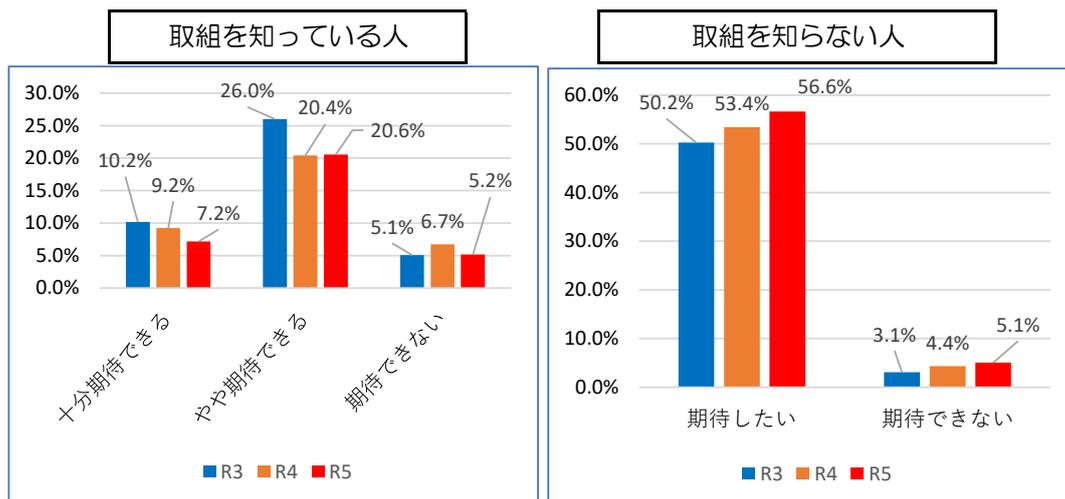
③自然環境にやさしいまちづくりの推進



◆「取組を知っている人」については、「期待できる」と回答した割合が32%と前年より1.8%減少している。「取り組みを知らない人」については、「期待したい」と回答した割合が3.8%増加している。

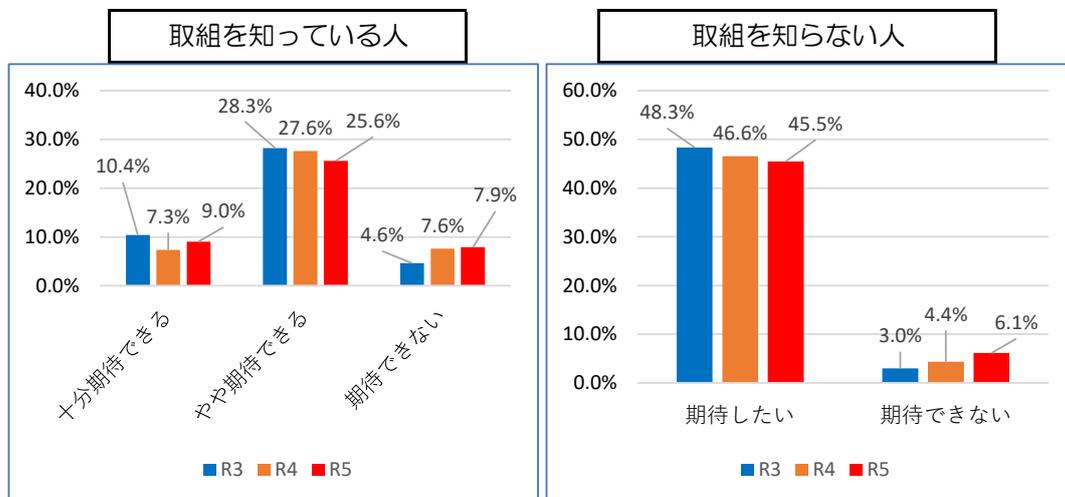
<基本目標5 ともに支えあい、いきいきと暮らせるまち>

①地域福祉の充実



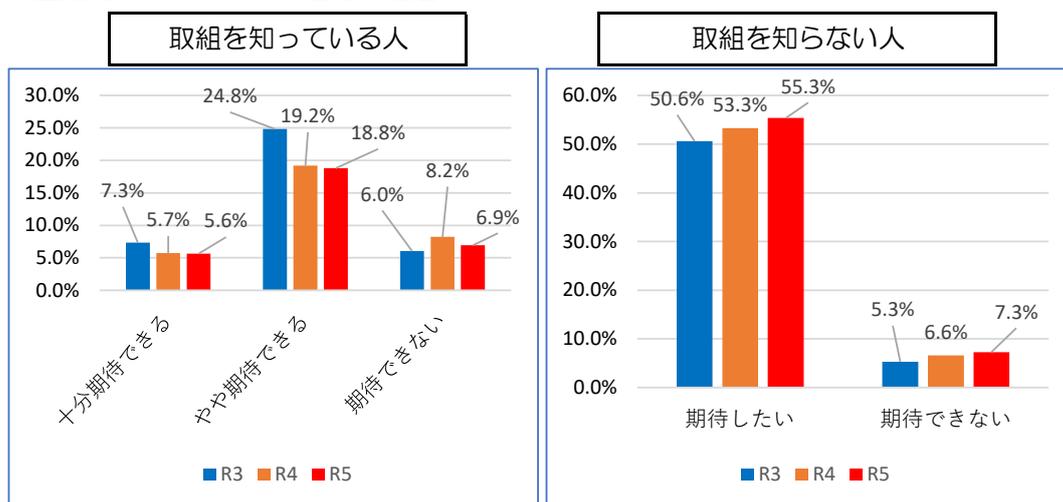
◆「取組を知っている人」については、「期待できる」と回答した割合が27.8 %と前年より1.8%減少している。「取り組みを知らない人」については、「期待したい」と回答した割合が3.2%増加している。

②健康づくり・生きがいつくりの推進



◆「取組を知っている人」については、「期待できる」と回答した割合が34.6 %と前年より0.3%減少している。「取り組みを知らない人」については、「期待したい」と回答した割合が1.1%減少している。

③共生協働・コミュニティ活動の推進



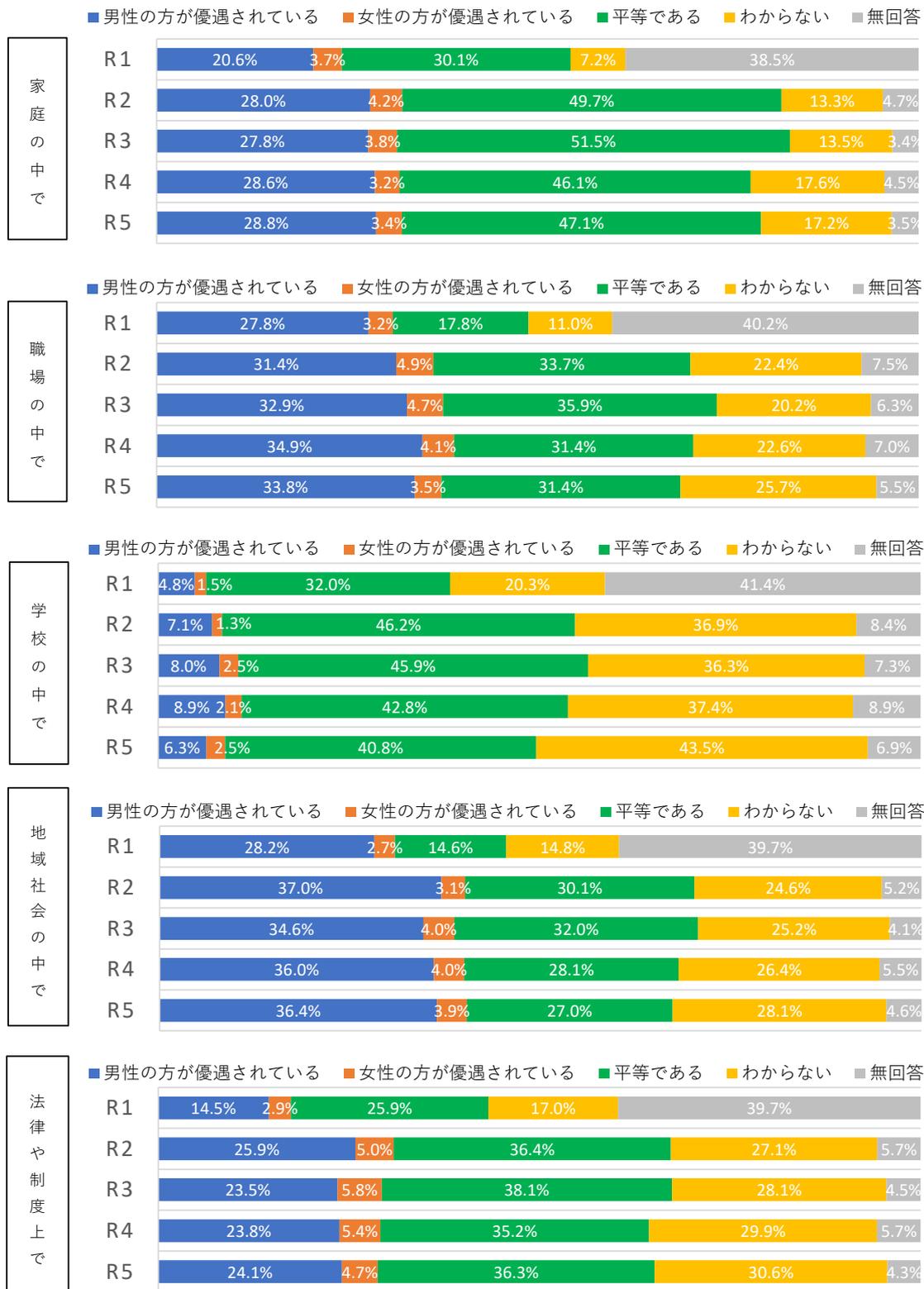
◆「取組を知っている人」については、「期待できる」と回答した割合が24.4 %と前年より0.5%減少している。「取組を知らない人」については、「期待したい」と回答した割合が2%増加している。

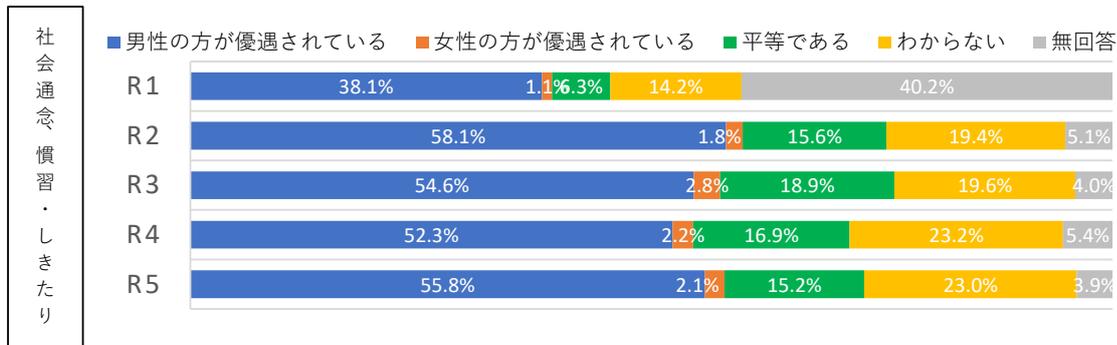
※基本目標別の自由意見については別冊参照

## 5 総合計画に記載されているKPIについて

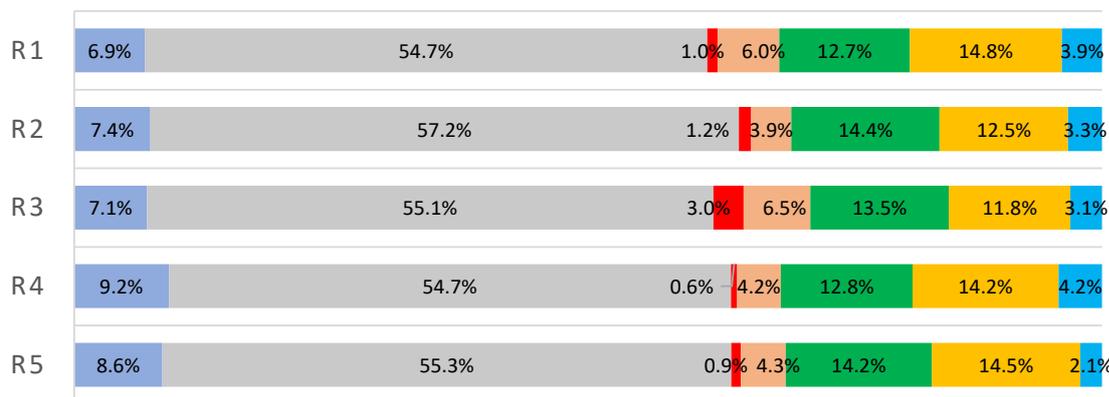
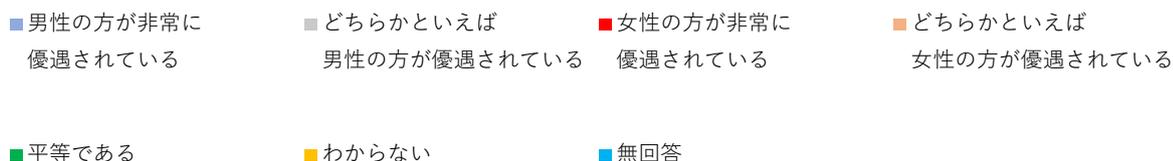
### (1) 男女平等意識について

#### ①各分野における男女の地位の平等感





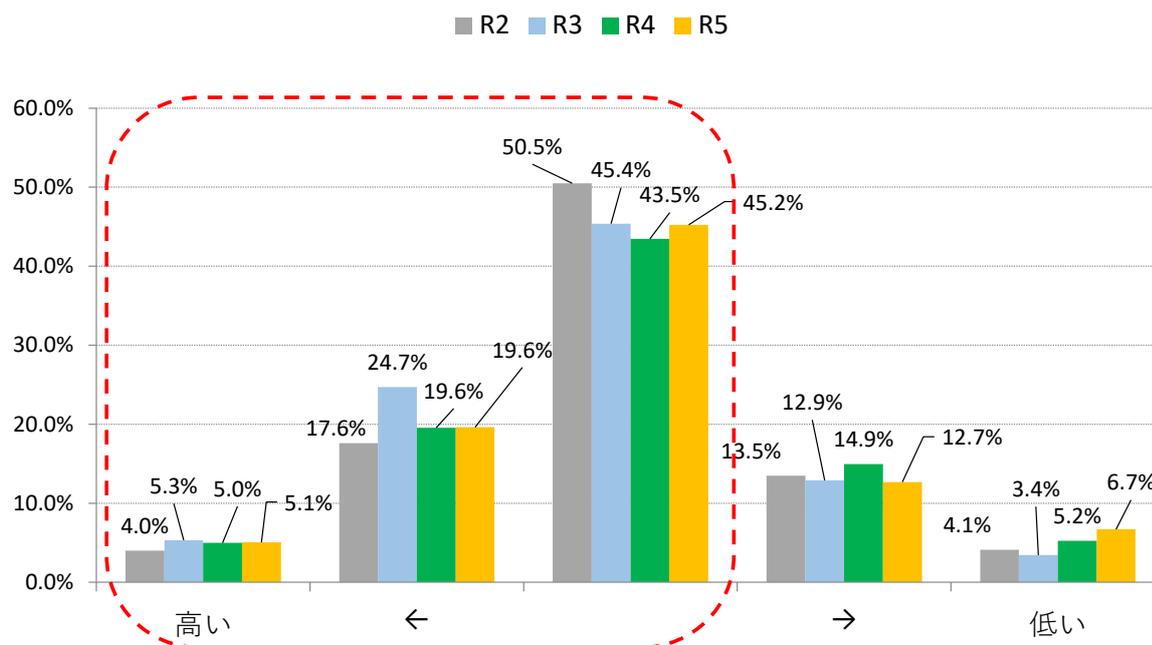
## ②社会全体において男女が「平等である」と感じる人の割合



基準値	前々回	前回	今回	目標値
14.9%	13.5%	12.8%	14.2%	20.0%
H29	R3	R4	R5	R6

◆「社会全体」でみると、「平等である」の回答割合が前年よりも1.4%増加している。目標値を大きく下回っていることや、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が半分以上を占めている状況はここ数年変わっていない。

(2) 子育てに対する環境や支援に満足している市民の割合

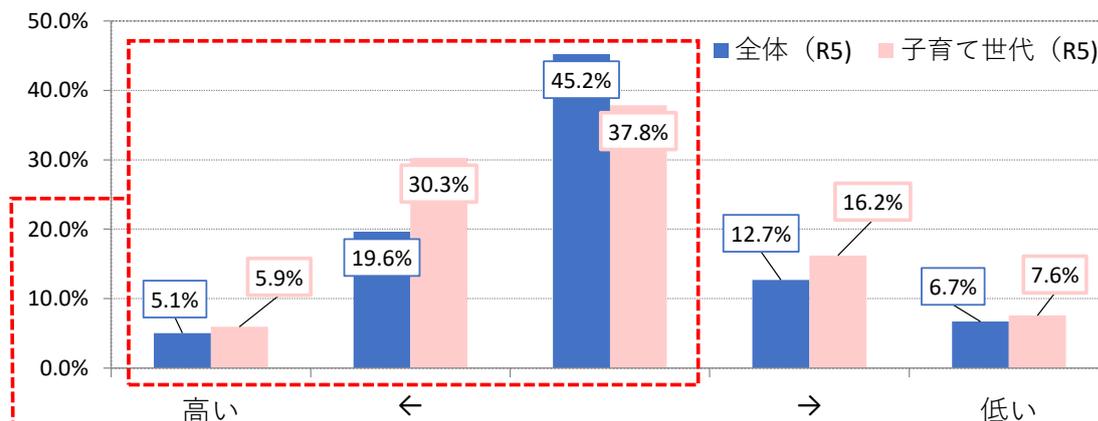


基準値	前々回	前回	今回	目標値
65.1%	75.4%	68.0%	69.9%	75.0%
H30	R3	R4	R5	R6

(※選択肢の1～3の合計)

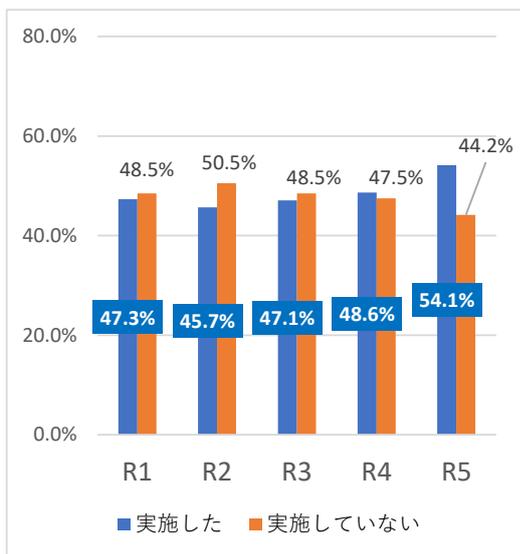
◆子育てに対する満足度は前回と比べて1.9%増加しているが、令和3年度と比較すると5.5%減少している。

※子育て世代（20～40歳代の2世代世帯・3世代世帯）の統計との比較



※子育て世帯の満足度は74%と全体を上回っている。

(3) スポーツ実施率（成人※）が過去1年間に週1回以上、運動・スポーツを行った割合

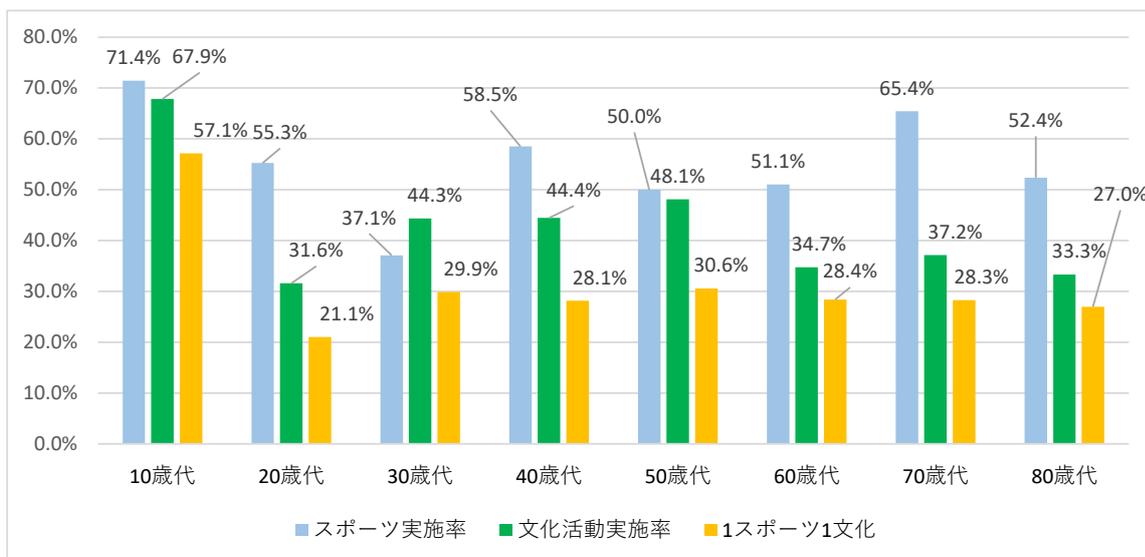


基準値	前々回	前回	今回	目標値
39.9%	47.1%	48.6%	54.1%	65.0%
H27	R3	R4	R5	R6

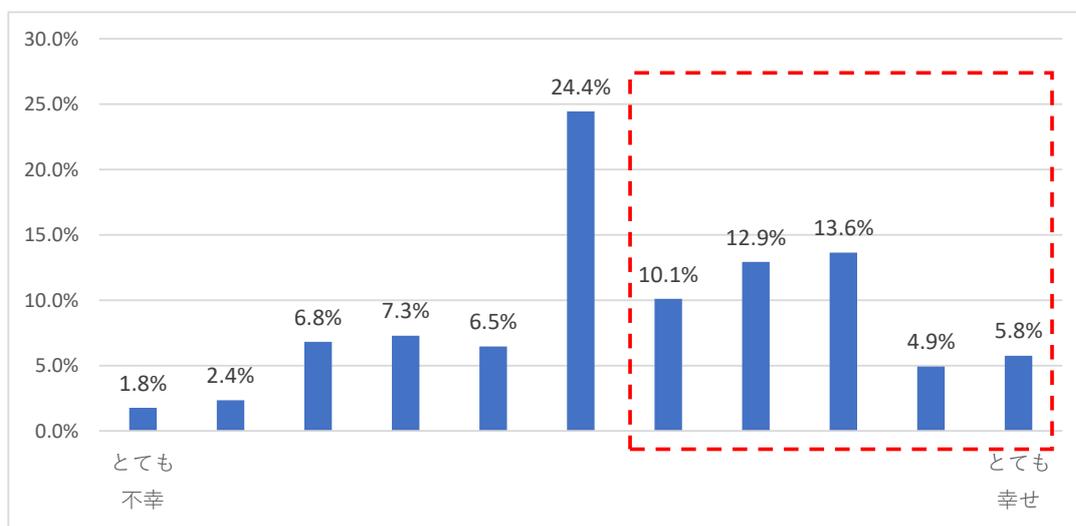
令和5年度のスポーツ実施率は前年より5.5%増加し、令和2年度から継続して増加している。ただ、目標値に対して10%以上下回っている。

※成人…本調査においては20歳代以上としている

※参考：年代別のスポーツ・文化的活動の実施率

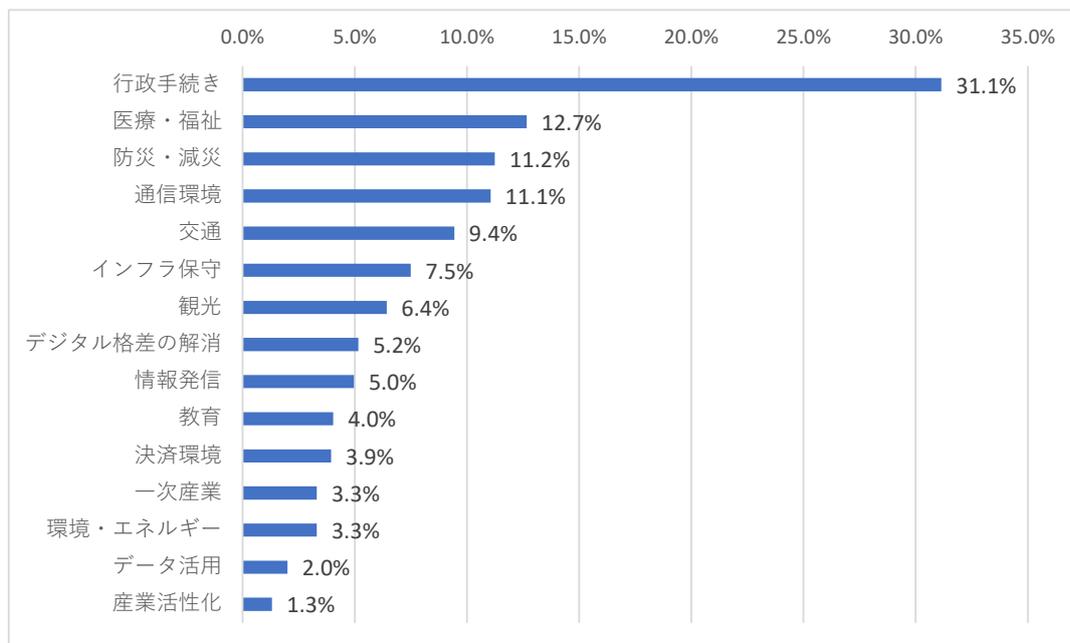


(4) いまの生活に幸福を感じている市民の割合



◆幸福度については、どちらでもないという回答の割合が24.4%と一番高かったが、どちらかという幸せを感じている割合が47.3%であった。

(5) 鹿屋市が重点を置くべきデジタル施策について



◆重点を置くべきデジタル化については、「行政手続き」の割合が31.1%と圧倒的に多かった。次に「医療・福祉」、「防災・減災」、「通信環境」という結果になった。